

令和7年度使用
中学校用教科用図書
採択参考資料

書 写

発行者の番号・略称	教科書の記号・番号
2 東書	書写 002-72
15 三省堂	書写 015-72
17 教出	書写 017-72
38 光村	書写 038-72

書 写

I 教科用図書の調査研究に当たって

1 調査対象教科用図書

2 東書 15 三省堂 17 教出 38 光村

2 調査研究の観点

- (1) 国語で正確に理解し適切に表現する上で必要となる「書写」の資質・能力を育成することができる内容であるか。
- (2) 内容の程度が心身の発達段階に応じて配慮されているか。
- (3) 「書写に関する事項」の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。
- (4) 文字や表記等が適切であり、学習に必要な写真や図表等の資料への配慮がなされているか。

3 調査研究に対する基本的な考え方

- (1) 偏りのない公正な立場で調査研究を行っている。
- (2) 調査研究の資料を通して、教科用図書の特徴が明らかになるよう配慮している。
- (3) 記述に当たっては、教科用図書の内容を具体的に取り上げるようにし、調査員の主観に陥らないようにしている。
- (4) 採択の関係者が、見やすく分かりやすいよう配慮している。

II 採択参考資料の見方について

1 各教科用図書の発行者の記載順序は、発行者の番号順としている。

2 各教科用図書の調査票は、記載順序に従って配列してある。

3 調査票の調査研究項目は、調査研究の観点についてまとめている。

- (1) 概括的な調査研究 観点(1)～(3)
 - ① ページ数、単元数、デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数 ② 教材数
- (2) 具体的な指導事項等について 観点(1)～(3)
 - ① 字形 ② 文字の大きさ、配列 ③ 筆順、点画
 - ④ 筆圧、書く速さ ⑤ 漢字と仮名の調和 ⑥ 楷書と行書の使い分け
 - ⑦ 効果的な書き方、文字文化 ⑧ 硬筆と毛筆との関連
- (3) 日常生活や学習活動とのつながりについて（言語活動例等） 観点(1)(2)
- (4) 伝統的な言語文化に関する事項の指導について 観点(1)
- (5) その他の特色について 観点(3)(4)

1 概括的な調査研究

(1) ページ数、単元数、デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

学年	ページ数	単元数	二次元コード
巻頭	4		2
1年	44	9	14
2年	30	8	9
3年	22	5	4
巻末・資料	45		4
合計	145	22	33

3学年の学習内容が1冊になっている。

B5判

(2) 教材数

	毛筆を扱っている教材数				日常生活や学習活動とつながりのある教材数	伝統的な言語文化に関わる教材数
	楷書		行書			
	漢字	漢字と仮名	漢字	漢字と仮名		
巻頭	0	0	0	0	0	0
1年	2	3	5	0	8	1
2年	0	1	2	5	12	1
3年	0	0	0	5	10	1
巻末・資料	0	0	0	0	19	0
合計	2	4	7	10	49	3

※伝統的な言語文化に関わる教材数は、古典作品の数。

2 具体的な指導事項等について

(1) 字形

○楷書の字形の整え方について、「外形と中心」「点画の長さ」「点画の間隔」「点画の方向」「点画の接し方・交わり方」「部分の組み立て方」「筆順の決まり」「点画のつながり・文字と文字のつながり」のポイントが示されている。(1年)

○点画や組み立て方のポイントとなる部分が、色や点線等で視覚的に示されている。(1年)

○部首について、行書の字形が2種類ずつ示されている。(巻末)

(2) 文字の大きさ、配列

○毛筆の手本の上下に記号を付け、中心が示されている。(1~3年)

○配列の整え方として、行の中心や字間、行間、余白、文字の大きさが点線等で示されている。(1, 2年)

○硬筆における縦書きと横書きについて、行の整え方が示されている。(1, 2年、巻末)

(3) 筆順、点画

○点画の丸みや点画の連続、点画の変化(1年)、点画の省略と筆順の変化(2年)が、楷書と行書を比較して示されている。

○毛筆の縮小手本は穂先を朱色にし、終筆から次の点画の始筆へのつながりが点線で示されている。(1, 2年)

○筆順を誤りやすい漢字や平仮名、片仮名に、筆順が数字で付けられている。(1, 2年)

○筆順の決まりが8つ示されている。(1年)

(4) 筆圧、書く速さ

- 行書と楷書を指でなぞり、動きの違いに気付かせる課題がある。(1年)
- 行書に調和する平仮名を、筆圧の変化や筆脈に気を付けて、つながりを意識して書くことが示されている。(2年)

(5) 漢字と仮名の調和

- 楷書に調和する平仮名と片仮名が五十音表で示されている。(1年、巻末)
- 行書に調和する平仮名と片仮名が五十音表で示され、その特徴(連続、方向の変化、筆使いの変化、省略)が示されている。(2年、巻末)

(6) 楷書と行書の使い分け

- 「読む相手」「読みやすさ」「書式」「書く速さ」「書く文字の量」「受ける印象の違い」等の観点から、場面や目的に応じて楷書と行書を使い分けることが示されている。(2年)

(7) 効果的な書き方、文字文化

- 手書き文字と活字の使い分け、書体、色、配列、筆記具等を工夫して効果的に書くことが示されている。(3年)
- 年表を参考に、文字の役割や現在とのつながりについて考える課題がある。(3年)

(8) 硬筆と毛筆との関連

- 硬筆の文字から文字を整えて書くポイントを見つけ、毛筆で書いて確認し、硬筆で定着を図る展開になっている。(1、2年)

3 日常生活や学習活動とのつながりについて(言語活動例等)

- 「生活に広げよう」で、日常生活や学習活動に関わる内容が取り上げられている。
- 他教科等の学習に関連がある単元や教材には、教科関連マークが付けられている。
手紙[お礼状・封筒・依頼状]、年賀状、聞き取りメモ、ポスター、レポート(1年)
ポップ、メモ、試験の申込書、会議録、ポスター、案内表示、看板、パンフレット(2年)
黒板、ノート表紙、石碑、ポスター、掲示板、案内看板、店頭案内、リモコン、道路標識、看板、簡潔な手紙、新聞、小説原稿、ガリ版、デジタルフォント、ノート、メッセージカード、寄せ書き、名言集、短冊(3年)
手紙[礼状・依頼文]、電子メール、封筒[縦書き・横書き]、はがき、ポスター、フリップ、プレゼンテーションソフト、グラフ・表、新聞、リーフレット、入学願書、原稿用紙、のし袋、複写式の用紙、返信用はがき、ノート、レポート(巻末)

4 伝統的な言語文化に関する事項の指導について

- 古典を扱った教材が取り上げられている。
いろは歌、竹取物語(1年) 枕草子(2年) おくのはそ道(3年)

5 その他の特色について

- 学習の進め方が示されている。
「目標」「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」「振り返ろう」「生活に広げよう」
- 学習を振り返る「まとめ」(1、2年)と「書写テスト」(1~3年)がある。
- 楷書や行書を学ぶ単元では、「書写のかぎ」のインデックスがある。
- 高等学校の芸術科書道の学習内容を紹介するページがある。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が入り入れられている。

1 概括的な調査研究

(1) ページ数、単元数、デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

学年	ページ数	単元数	二次元コードの数
巻頭	11		3
1年	38	8	17
2年	26	5	10
3年	13	2	3
巻末・資料	32		7
合計	120	15	40

○3 学年の学習内容が
1 冊になっている。

○B 5判

(2) 教材数

	毛筆を扱っている教材数				日常生活や 学習活動と つながりの ある教材数	伝統的な言 語文化に関 わる教材数
	楷書		行書			
	漢字	漢字と 仮名	漢字	漢字と 仮名		
巻頭	0	0	0	0	0	0
1年	1	2	4	0	2	3
2年	0	2	3	2	6	3
3年	1	0	0	2	2	1
巻末・資料	3	3	3	3	10	0
合計	5	7	10	7	20	7

※伝統的な言語文化に関わる教材数は、古典作品の数。

2 具体的な指導事項等について

(1) 字形

- 楷書の字形の整え方について、「点画の組み立て（中心、長短、間隔、方向、接し方、交わり方）」「部分の組み立て（左右、上下、内外）」「外形」のポイントが示されている。（1年）
- 「点画の組み立て」「部分の組み立て」「外形」のポイントとなる部分が、色や点線等で視覚的に示されている。（1年）
- 小・中学校で学習する漢字が、楷書と行書を比較できるように配列され示されている。（巻末）

(2) 文字の大きさ、配列

- 毛筆の手本の上下に記号を付け、中心が示されている。（1～3年）
- 文字の大小、字間、行の中心、行間、余白が点線等で示されている。（1年）
- 硬筆における縦書きについて、行の整え方が示されている。（巻末）

(3) 筆順、点画

- 点画の丸みや点画の連続、点画の変化（1年）、点画の省略と筆順の変化（2年）が、楷書と行書を比較して示されている。
- 毛筆の縮小手本は穂先を朱色にして示されている。（1、2年）
- 筆順を誤りやすい漢字に、筆順が数字で付けられている。（1、2年）
- 筆順の意義とともに原則が3つ示されている。（1年）

(4) 筆圧、書く速さ

- 線の太さは筆圧を変えて調節することが示されている。(巻頭)
- 点画の丸みについて、横画の送筆は筆圧を弱めること、折れは速度を落として方向を変えることが示されている。(1年)

(5) 漢字と仮名の調和

- 楷書に調和する平仮名がいろは歌の順で示されている。(1年)
- 行書に調和する平仮名がいろは歌の順で示され、その特徴(連続、形や方向の変化、省略)が示されている。(2年)

(6) 楷書と行書の使い分け

- 「読み手」「目的」「状況」を意識して、書体を選択して書くことが示されている。(2年)

(7) 効果的な書き方、文字文化

- 身の回りの生活から印象に残った文字の表現を探し、その工夫や効果を考え、文字を書くことと、どのように関わっていくかを考える課題がある。(3年)
- 手書き文字や活字による伝え方の変遷を示し、それぞれの特徴を捉え、どのように移り変わってきたかを考える課題がある。(3年)

(8) 硬筆と毛筆との関連

- 書き方のポイントをつかんだ後、毛筆で書いて確認し、硬筆で定着を図る展開になっている。(1、2年)

3 日常生活や学習活動とのつながりについて(言語活動例等)

- 「やってみよう」で、学習を生かして書く活動が取り上げられている。
- 他教科等の学習との関連が図られている。
レポート、グループ新聞(1年)
はがき、テストの解答欄、メモ、お礼状、企画書、情報誌(2年)
手紙、新聞記事、広告、年賀状、活字、ポスター、看板、題字、篆刻、名言集(3年)
手紙、封筒、はがき、往復はがき、送り状、のし袋、願書、原稿用紙(巻末)

4 伝統的な言語文化に関する事項の指導について

- 古典を扱った教材が取り上げられている。
いろは歌、俳句(松尾芭蕉)、竹取物語(1年)
いろは歌、俳句(石川啄木)、枕草子、平家物語(2年)
おくのほそ道、風姿花伝、論語、講孟余話(3年)

5 その他の特色について

- 学習の進め方が示されている。
「目標」、「書き方を学ぼう」、「毛筆で書く」、「学習を振り返る」、「書いて身につけよう」
- 毛筆で学んだことを硬筆で練習するページがある。
- 「振り返ろう」に、単元を通して学んだことが実際に活用できているかを確認し、自分が学んだことを書き残す欄がある。
- 高等学校の芸術科書道の学習内容を紹介するページがある。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点を取り入れられている。

1 概括的な調査研究

(1) ページ数、単元数、デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

学年	ページ数	単元数	二次元コードの数
巻頭	12		8
1年	52	14	15
2年	34	11	12
3年	17	5	6
巻末・資料	29		4
合計	144	30	45

○3 学年の学習内容が
1 冊になっている。

○A B 判

(2) 教材数

	毛筆を扱っている教材数				日常生活や 学習活動と つながりの ある教材数	伝統的な言 語文化に関 わる教材数
	楷書		行書			
	漢字	漢字と 仮名	漢字	漢字と 仮名		
巻頭	0	0	0	0	9	0
1年	2	2	4	0	16	2
2年	0	0	2	3	14	5
3年	0	0	0	3	8	4
巻末・資料	2	1	6	1	23	0
合計	4	3	12	7	70	11

※伝統的な言語文化に関わる教材数は、古典作品の数。

2 具体的な指導事項等について

(1) 字形

- 楷書の字形の整え方について、「全体の整え方(文字の中心、文字の外形)」「点画の整え方(点画の長短、点画の方向、画と画との間、接し方・交わり方)」「部分と部分との組み立て方(左右、上下、中と外)」のポイントが示されている。(1年)
- 「全体の整え方」「点画の整え方」「部分と部分との組み立て方」のポイントとなる部分が、色や図、点線等で視覚的に示されている。(1年)
- 小・中学校で学習する漢字が、共通する点画や似通った部分に分けて配列され示されている。(巻末)

(2) 文字の大きさ、配列

- 毛筆の手本の上下に記号を付け、中心が示されている。(1~3年)
- 行の中心や字間、余白、文字の大きさが点線等で示されている。(1~3年)
- 硬筆における縦書きと横書きについて、行の整え方が示されている。(1~3年、巻末)

(3) 筆順、点画

- 点画の連続と点画の変化(1、2年)、点画の省略(1、2年)、筆順の変化(2年)が表れる部分が、行書と楷書を比較して示されている。
- 毛筆の縮小手本は穂先を朱色にして、終筆から次の点画の始筆へのつながりが点線で示されている。(1~3年)
- 筆順を誤りやすい漢字、平仮名や片仮名に、筆順が数字で付けられている。(1~3年)
- 筆順の大きなきまりが3つ示されている。(1年)

(4) 筆圧、書く速さ

- 筆圧を3段階に分けて、筆圧によっていろいろな太さの線を書くことができることが示されている。(1年)
- 楷書、行書、草書を書く速さが、それぞれ「立つ」「歩く」「走る」と示されている。(1年)

(5) 漢字と仮名の調和

- 楷書に調和する仮名が、いろは歌と五十音表(平仮名と片仮名)で示されている。(1年)
- 行書に調和する平仮名が、いろは歌と五十音表で示され、その筆使いが示されている。(2年)

(6) 楷書と行書の使い分け

- 書く目的や相手によって、書き方(書体、筆記用具、注意点)を工夫することが示されている。(2年)

(7) 効果的な書き方、文字文化

- 身の回りで見かける文字について、「目的」「相手」「文字の配列」「効果」「書体」「印象」等の観点から、文字の表現効果を考えることが示されている。(3年)
- 歴史上の人物が残した文字(1年)や日本建築と「書」(2年)、全国の城(3年)等、身の回りの表現を通して文字文化にふれるページがある。

(8) 硬筆と毛筆との関連

- 硬筆で学習の目標を確かめ、毛筆で書いて確認し、硬筆で定着を図る展開になっている。(1~3年)

3 日常生活や学習活動とのつながりについて(言語活動例等)

- 「学習を生かして書く」「学校生活に生かして書く」で、日常生活や学習活動に関わる内容が取り上げられている。
- 他教科等の学習との関連が図られている。
メッセージカード、メモ、ポスターセッション、クラス旗、Tシャツ、書き初め、ポスター、誕生日カード、暑中見舞い、ノート(巻頭)
ノート、メッセージカード、メモ、レポート、表紙、本の帯、ポップ、ポスター、年賀状、表札、活字、発表用の資料、案内板、タブレット(1年)
短冊、色紙、懐紙、メモ、ノート、手紙、封筒、黒板、立て看板、新聞、ポスター、案内状(2年)
短冊、取材レポート、案内標識、看板、案内板、凧、提灯、お菓子の包み紙、橋名、書籍の題字、記念碑、石碑、リーフレット、メッセージカード、課題レポート、(3年)
手紙、一筆箋、封筒、はがき、年賀状、暑中見舞い、往復はがき、電子メール、包み紙、エアメール、原稿用紙、小包伝票、願書、志願理由書、付箋、短冊、表、案内文、色紙(巻末)

4 伝統的な言語文化に関する事項の指導について

- 古典を扱った教材が取り上げられている。
いろは歌、竹取物語(1年) いろは歌、論語、百人一首、枕草子、平家物語(2年)
おくのほそ道(3年) 俳句(小林一茶)、和歌(光孝天皇)(巻末)

5 その他の特色について

- 学習の進め方が示されている。
「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」「学習や日常生活に生かそう」
- 3年間の学習を確かめる「書写テスト」がある。
- 課題解決のための情報整理の方法を示すページがある。
- 高等学校の芸術科書道を紹介するページがある。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が入り入れられている。

1 概括的な調査研究

(1) ページ数、単元数、デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

学年	ページ数	単元数	二次元コード
巻頭	8		12
1年	32	5	19
2年	26	5	11
3年	26	3	8
巻末・資料	73		7
合計	165	13	57

○3 学年の学習内容が
1 冊になっている。

○B 5 判

※ 『書写ブック』は巻
末・資料に含めた。

(2) 教材数

	毛筆を扱っている教材数				日常生活や 学習活動と つながりの ある教材数	伝統的な言 語文化に関 わる教材数
	楷書		行書			
	漢字	漢字と 仮名	漢字	漢字と 仮名		
巻頭	0	0	0	0	0	0
1年	2	2	4	0	1	4
2年	1	1	3	2	6	2
3年	0	2	1	3	9	3
巻末・資料	1	0	5	3	17	10
合計	4	5	13	8	33	19

※伝統的な言語文化に関わる教材数は、古典作品の数。

2 具体的な指導事項等について

(1) 字形

- 楷書の字形の整え方について、「筆使い（点画の種類と筆使い）」（1年・資料）「字形（筆順・外形の中心）」「組み立て（部分の組み立て、点画の組み立て）」（資料）のポイントが示されている。
- 「筆順」「外形と中心」「点画や部分の組み立て方」のポイントとなる部分が、色や点線等で視覚的に示されている。（資料）
- 部首について、行書の字形が画数ごとに2種類示されている。（巻末）

(2) 文字の大きさ、配列

- 毛筆の手本の上下に記号を付け、中心が示されている。（1～3年）
- 文字の大きさ、配列（行の中心、字間と行間）、用紙に対する文字の大きさ（余白）が点線等で示されている。（1年・資料）
- 硬筆における縦書き（1年）、横書き（巻末）について、行の整え方が示されている。

(3) 筆順、点画

- 点画の変化と点画の連続（1年）、点画の省略と筆順の変化（2年）が、楷書と行書を比較して示されている。
- 毛筆の縮小手本は穂先を朱色にし、終筆から次の点画の始筆へのつながりが点線で示されている。（1、2年）
- 筆順を誤りやすい漢字や平仮名、片仮名に、筆順が数字で付けられている。（1、2年）
- 筆順の決まりが4つ示されている。（1年）

(4) 筆圧、書く速さ

- 筆圧を3段階に分けて、線の太さを筆圧で調節することが示されている。(1年)
- 一画ずつ丁寧に楷書で書いたときと、できるだけ速く書いたときの文字の特徴を比べて話し合う課題がある。(1年)

(5) 漢字と仮名の調和

- 楷書に調和する仮名が、いろは歌と五十音表(平仮名)で示されている。(1年)
- 行書に調和する仮名が、いろは歌と五十音表(平仮名)で示され、その特徴(点画の変化、点画の連続)が示されている。(2年)

(6) 楷書と行書の使い分け

- 相手や目的を意識して、場面に応じて楷書と行書を使い分けることが示されている。(2年)

(7) 効果的な書き方、文字文化

- 効果的に伝えるためには、「活字」や「手書き文字」等、文字の特徴を理解し、目的に合わせて使い分けることが必要であることが示されている。(3年)
- 街並みに合わせたフォントを取り上げたコラム(2年)や「全国文字マップ」で身近な文字を取り上げたページ(3年)がある。

(8) 硬筆と毛筆との関連

- 課題について考えた後、毛筆で書いて確認し、硬筆で定着を図る展開になっている。(1、2年)

3 日常生活や学習活動とのつながりについて(言語活動例等)

- 「学校生活」や「コラム」のページで、日常生活や学習活動に関わる内容が取り上げられている。
- 他教科等の学習との関連が図られている
SDGs行動宣言(1年) 応援旗、めくり、ポップ、学級目標、年賀状、新聞(2年)
石碑等、新聞、時計、標識、自治体ウェブサイト、スマートフォン、リモコン、駅名板、食品のパッケージ、ポスター、案内板、防災クイズ、ラベル、付箋、防災CM動画、看板、冊子(3年)
手紙、封筒、はがき、往復はがき、送り状、入学願書、志望理由書、原稿用紙、レポート、メール、タッチペンでの署名、プレゼンテーション、デジタル付箋、メッセージカード(巻末) 年賀状(資料)

4 伝統的な言語文化に関する事項の指導について

- 古典を扱った教材が取り上げられている。
いろは歌、俳句(松尾芭蕉・小林一茶)、和歌(藤原顕輔)(1年)
いろは歌、枕草子(2年) 和歌(菅原道真)、短歌(清原深養父・文屋朝康)(3年)
竹取物語、和歌(藤原顕輔・在原業平)、平家物語、万葉集、古今和歌集、新古今和歌集、おくのほそ道(資料)

5 その他の特色について

- 学習の進め方が示されている。
「考えよう」「確かめよう」「生かそう」
- 毛筆の学習を硬筆に生かして書く『書写ブック』が付いている。
- 『書写ブック』に、3年間の学習を確かめる「書写テスト」がある。
- 高等学校の芸術科書道を紹介するページがある。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が入り入れられている。

